平成27年７月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年12月12日

上場会社名　株式会社ファーマフーズ　上場取引所　東
コード番号　2929　ＵＲＬ　http://www.pharmafoods.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）金　武祚
問合せ先責任者　（役職名）取締役総務部部長　（氏名）新谷　義信　ＴＥＬ　075-394-8600
四半期報告書提出予定日　平成26年12月12日　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成27年７月期第１四半期の業績（平成26年８月１日～平成26年10月31日）

（１）経営成績（累計）　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年７月期第１四半期	316	△6.5	△186	－	△162	－	△163	－
26年７月期第１四半期	338	2.1	1	△97.6	16	△80.3	15	△80.0

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年７月期第１四半期	△11.30	－
26年７月期第１四半期	1.35	－

（注１）平成27年７月期第１四半期の「潜在株式調整後１株当たり四半期純利益」につきましては、潜在株式は存在するものの１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
（注２）平成26年７月期第１四半期の「潜在株式調整後１株当たり四半期純利益」につきましては、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年７月期第１四半期	3,760	3,515	93.5	242.98
26年７月期	3,934	3,691	93.8	255.08

（参考）自己資本　27年７月期第１四半期　3,515百万円　26年７月期　3,691百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年７月期	－	0.00	－	0.00	0.00
27年７月期	－				
27年７月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．平成27年７月期の業績予想（平成26年８月１日～平成27年７月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期（累計）	800	13.8	△230	－	△240	－	△250	－	－
通期	2,500	54.8	200	－	190	－	170	－	11.75

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年７月期１Ｑ	14,470,500株	26年７月期	14,470,500株
②　期末自己株式数	27年７月期１Ｑ	－株	26年７月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	27年７月期１Ｑ	14,470,500株	26年７月期１Ｑ	11,760,000株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】４ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期財務諸表 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 7
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等） …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や設備投資が活発に行われる等、景気回復への動きは見せておりましたが、一方で消費支出は本格的な回復には至らず、先行き不透明な環境下で推移しました。

このような経営環境下において、当社は「医薬と食の融合」というコンセプトに基づき、事業部門を機能性素材部門、機能性製品部門（通販事業）、機能性製品部門（ＯＥＭ等）、バイオメディカル部門、ＬＳＩ（Life Science Information）部門と定めて事業活動に取り組んでまいりました。

開発面での主な活動としては、創薬事業に注力してきた結果、鶏の免疫システムを活用し新たな抗体医薬品の創出を行うニワトリ抗体医薬事業において「関節リウマチプロジェクト」が、経済産業省所管の大学発の技術シーズ活用プロジェクト「橋渡し研究事業」に採択され、事業化へ向けて大きく前進いたしました。本事業は各大学医学部との共同研究を行っており、独自の開発技術の特許を製薬企業へライセンスアウトするビジネスを目指しております。

またニワトリ抗体作製技術による「高病原性鳥インフルエンザの診断・防除法の開発」が、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構の大型プロジェクトに採択されるなど、当社独自のニワトリ抗体作製技術が評価を受けております。

この他、天然物由来の育毛活性成分の研究開発を進めており、新規育毛活性ペプチドの開発に成功し、本技術の特許出願を行いました。本ペプチド事業は食品分野のみならず、将来的には医薬品分野への展開を目指しております。

営業面での主な活動としては、通販事業に積極的に取り組んでまいりました。今年９月からは自社専属のコールセンターを新設し、お客様との関係性を強化してきた結果、顧客獲得へ大きく寄与しました。通販事業の顧客数は大きく増加し、主力製品である「ｉＨＡ（アイハ）」配合の膝関節用サプリメント「タマゴサミン」を毎月ご利用いただく定期顧客数は前期末（平成26年７月末）の約７，０００件から平成27年11月７日時点で１０，０００件を突破し、累計顧客数は４１，０００名を超えております。

広告宣伝では、自社の研究員が出演するラジオＣＭ、有森裕子さんとタイアップしたテレビＣＭ等を引き続き実施し、将来を見据えた積極的な先行投資を行ってまいりました。

これらの結果、売上高は316百万円（前年同四半期338百万円、前年同四半期比6.5％減）となり、売上総利益については、176百万円（前年同四半期188百万円、前年同四半期比5.9％減）となりました。販売費及び一般管理費については、通販事業での先行投資を積極的に行った事などの結果、363百万円（前年同四半期186百万円、前年同四半期比94.8％増）となり、営業損失は186百万円（前年同四半期は営業利益1百万円）となりました。

最終損益では、為替差益11百万円、補助金収入６百万円等を計上した結果、経常損失162百万円（前年同四半期は経常利益16百万円）、四半期純損失163百万円（前年同四半期は四半期純利益15百万円）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりです。

＜機能性素材部門＞

機能性素材部門の内、当社の基幹技術である鶏卵抗体では、ピロリ菌抗体「オボプロン」が配合されているグリコ乳業株式会社の「ドクターPiroヨーグルト」が、高級スーパー、ドラッグストア、宅配ルート等で引き続き販売されております。また通信販売事業において、インフルエンザ抗体「オボプロン」を配合したサプリメント「マケンザＸ」、マスク用の「マケンザスプレー」を販売しております。インフルエンザの本格的な流行を控えまして、「マケンザＸ」の需要も増加しており、救心製薬株式会社と提携し、今シーズンも「マケンザスプレー」の店頭販売を行います。

「ギャバ」につきましては、同製品が採用されております江崎グリコ株式会社の「メンタルバランスチョコレートＧＡＢＡ」が引き続き販売されております。また海外では、北米地域での売上が好調に推移しております。

「ボーンペップ」につきましては、ロート製薬株式会社の「セノビック」に同製品が引き続き採用されております。海外では、韓国最大の乳飲料メーカーであります韓国ヤクルト社から同製品が配合されました「新鮮な一日の牛乳」が引き続き販売されております。

「ランペップ」につきましては、運動疲労軽減用のサプリメント、活力向上用のサプリメントの他、毛髪修復効果を活かして、トリートメント素材で使用されるなど用途を拡大しております。

「ｉＨＡ（アイハ）」につきましては、ヒアルロン酸配合サプリメント「皇潤プレミアム」に引き続き採用されております。また同素材を配合した製品「タマゴサミン」を自社通信販売事業「タマゴ基地」で発売しております。

これらの結果、機能性素材部門の売上高は162百万円（前年同四半期211百万円、前年同四半期23.2%減）、セグメント損失33百万円（前年同四半期はセグメント利益12百万円）となりました。

＜機能性製品部門（通販事業）＞

機能性製品部門（通販事業）については、引き続き積極的な先行投資を実施し、ラジオＣＭ、テレビＣＭを中心に広告宣伝活動を展開してまいりました。本年9月からは自社コールセンターを開設し、顧客獲得へ繋げてきた結果、膝関節用サプリメント「タマゴサミン」を毎月ご利用いただく定期顧客件数は、１０，０００件を突破しました。

この他「sognando（ソニャンド）」ブランドとして活性卵殻膜配合の「珠肌石鹸（たまはだせっけん）」を販売しており、売上を伸ばしました。「sognando」ブランドでは、「珠肌石鹸」に続き「珠肌ＣＣクリーム」「珠肌化粧水」等を今夏より販売開始し、商品ラインナップを拡充しております。

これらの結果、機能性製品部門（通販事業）の売上高は120百万円（前年同四半期15百万円、前年同四半期663.5%増）、セグメント損失128百万円（前年同四半期はセグメント損失28百万円）となりました。

＜機能性製品部門（ＯＥＭ等）＞

ＯＥＭ事業等では、健康食品会社、通販会社へサプリメントなどの企画・販売を行ってまいりました。

これらの結果、売上高は28百万円（前年同四半期35百万円、前年同四半期17.8%減）、セグメント損失12百万円（前年同四半期はセグメント損失13百万円）となりました。

＜バイオメディカル部門＞

バイオメディカル部門では、当社の基幹技術である鶏卵抗体の高度展開を目指し新たな創薬品の開発を進めております。当期においては「関節リウマチプロジェクト」が経済産業省の補助事業に、「高病原性鳥インフルエンザの診断・防除法の開発プロジェクト」が農業・食品産業技術総合研究機構の補助事業に採択されるなど、事業化へ向けて大きな足がかりを築きました。

また、この他、大手製薬メーカーから医薬品・診断薬開発目的のための各種抗体受託作製を行っております。

以上により、売上高は4百万円（前年同四半期6百万円、前期比31.9%減）、セグメント損失12百万円（前期はセグメント損失4百万円）となりました。

＜ＬＳＩ（Life Science Information）部門＞

ＬＳＩ事業におきましては、医薬品メーカー・食品メーカー等から各種素材・製品等に関して分析・効能評価試験等を行っております。当事業年度においては受託研究や成分分析等の受託業務を行い、売上高0百万円（前年同四半期70百万円、前年同四半期比98.7%減）、セグメント利益0百万円(前年同四半期はセグメント利益36百万円、前期比99.0%減)となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

資産につきましては、受取手形及び売掛金の減少等により、当第１四半期会計期間末は前事業年度末に比べ174百万円減少し、3,760百万円となりました。

（負債）

負債につきましては、未払金の増加等により、当第１四半期会計期間末は前事業年度末に比べ1百万円増加し、244百万円となりました。

（純資産）

純資産につきましては、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少等から、当第１四半期会計期間末は前事業年度末に比べ175百万円減少し、3,515百万円となりました。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後のわが国経済は、輸出環境の改善や設備投資が積極的に行われていることなど、輸出産業を中心に改善の兆しは見せつつあるものの、一方で円安の進行により民間消費支出が伸び悩んでいることなど、依然として先行き不透明な状況の中で推移していくものと見られます。

このような環境下において、当社は昨年12月に公表しました中期経営計画において記載の「Bio Business Triangle」の実現を目指し、以下の三つの事業を柱として、更なる企業価値の向上を目指してまいります。

① 機能性素材事業
② 通信販売事業
③ 創薬事業

① 機能性素材事業につきましては、国内外の大手メーカーとの取引開拓を目指し、積極的に取り組んでまいります。開発面においては、発酵青バナナ末「バナファイン」、鶏軟骨由来のヒアルロン酸産生促進素材「ＨＡ-Ⅱ」、サルコペニア（筋肉減弱症）対策素材「サルコペップ」等の新素材の開発、事業化を進め、大型案件の構築を目指します。海外においては、米国をはじめとする北米や中国、韓国、東南アジア等で大手メーカーとの共同開発や販路拡大など、新しい取引の開拓を行ってまいります。

② 通信販売事業につきましては、一層の事業の拡大を目指し積極的に展開してまいります。本年９月からは自社コールセンターを新設し、新規顧客の獲得へ大きく寄与しておりますが、同事業を更に強化させ、一層の顧客開拓へ繋げてまいります。また膝関節用サプリメント「タマゴサミン」を主力製品として、「sognando（ソニャンド）」ブランドで発売している「珠肌石鹸」の他、同ブランド製品の売上拡大、更には新製品も投入していき、複数の製品による販売展開を行います。広告宣伝では、ラジオＣＭに加え、テレビ、新聞・Web広告等、媒体を広げ、更なる顧客獲得へ繋げてまいります。

③ 創薬事業につきましては、ニワトリの免疫システムを活用した独自のニワトリ抗体医薬事業により、難治性の疾患に対する医薬品の開発を進めてまいります。今秋に「関節リウマチプロジェクト」が経済産業省の補助事業に採択されたことを受け、同事業の展開を推進していき、当期において製薬企業との契約締結を目指してまいります。また同じくニワトリ抗体医薬事業による、「悪性腫瘍プロジェクト」の開発にも注力しており、大学医学部との共同研究を進めております。更に天然物由来の骨形成を促進する新規ペプチド創薬「リプロタイト」の開発も進めており、ニワトリ抗体医薬事業に続く、創薬事業の柱として注力してまいります。

なお、第２四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成26年９月12日に発表しました業績予想数値から、変更はありません。

２．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成26年７月31日）	当第１四半期会計期間 （平成26年10月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,513,820	1,552,585
受取手形及び売掛金	672,271	408,574
商品及び製品	193,779	234,871
仕掛品	927	2,131
原材料及び貯蔵品	9,261	26,849
その他	153,423	155,873
貸倒引当金	△7,117	△4,435
流動資産合計	2,536,365	2,376,450
固定資産		
有形固定資産		
建物	420,870	423,500
構築物	26,471	26,471
車両運搬具	15,180	15,180
工具、器具及び備品	183,260	193,538
土地	387,863	387,863
リース資産	16,703	16,703
減価償却累計額	△345,176	△350,453
有形固定資産合計	705,172	712,804
無形固定資産		
のれん	2,682	2,514
特許権	863	828
商標権	541	516
ソフトウエア	534	472
その他	250	242
無形固定資産合計	4,873	4,574
投資その他の資産		
投資有価証券	346,907	328,778
関係会社株式	78,245	78,245
関係会社長期貸付金	178,598	174,099
長期前払費用	11,870	10,215
保険積立金	69,917	70,440
その他	4,331	6,591
貸倒引当金	△1,985	△1,941
投資その他の資産合計	687,884	666,429
固定資産合計	1,397,930	1,383,807
資産合計	3,934,295	3,760,258

（単位：千円）

	前事業年度 （平成26年７月31日）	当第１四半期会計期間 （平成26年10月31日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	135,859	111,661
リース債務	797	797
その他	72,316	105,450
流動負債合計	208,974	217,908
固定負債		
リース債務	731	531
退職給付引当金	6,657	5,467
繰延税金負債	26,868	20,366
固定負債合計	34,256	26,366
負債合計	243,230	244,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,020,327	2,020,327
資本剰余金	1,871,031	1,871,031
利益剰余金	△323,223	△486,677
株主資本合計	3,568,135	3,404,681
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	122,929	111,301
評価・換算差額等合計	122,929	111,301
純資産合計	3,691,064	3,515,982
負債純資産合計	3,934,295	3,760,258

（２）四半期損益計算書

（第１四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　平成25年８月１日 至　平成25年10月31日）	当第１四半期累計期間 （自　平成26年８月１日 至　平成26年10月31日）
売上高	338,874	316,791
売上原価	150,834	139,917
売上総利益	188,039	176,873
販売費及び一般管理費		
役員報酬	17,620	19,170
給料手当及び賞与	19,933	26,546
法定福利費	4,451	6,080
旅費及び交通費	8,376	6,456
支払手数料	29,563	55,856
広告宣伝費	17,493	119,963
販売促進費	5,759	41,547
減価償却費	2,667	2,309
のれん償却額	121	167
研究開発費	43,655	49,517
貸倒引当金繰入額	4,061	△2,683
その他	32,865	38,419
販売費及び一般管理費合計	186,568	363,353
営業利益又は営業損失（△）	1,470	△186,479
営業外収益		
受取利息	2,224	2,538
為替差益	7,546	11,667
補助金収入	3,514	6,184
その他	3,294	3,200
営業外収益合計	16,579	23,589
営業外費用		
支払利息	302	－
貸倒引当金繰入額	994	△43
その他	9	－
営業外費用合計	1,306	△43
経常利益又は経常損失（△）	16,743	△162,846
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	16,743	△162,846
法人税、住民税及び事業税	862	607
法人税等合計	862	607
四半期純利益又は四半期純損失（△）	15,880	△163,454

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期累計期間（自　平成25年８月１日　至　平成25年10月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					合計（注）
	機能性素材	機能性製品（通販事業）	機能性製品（ＯＥＭ等）	バイオメディカル	ＬＳＩ	
売上高						
外部顧客への売上高	211,035	15,799	35,062	6,377	70,600	338,874
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	211,035	15,799	35,062	6,377	70,600	338,874
セグメント利益（△損失）	12,023	△28,824	△13,740	△4,712	36,725	1,470

（注）セグメント利益（△損失）の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

Ⅱ　当第１四半期累計期間（自　平成26年８月１日　至　平成26年10月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					合計（注）
	機能性素材	機能性製品（通販事業）	機能性製品（ＯＥＭ等）	バイオメディカル	ＬＳＩ	
売上高						
外部顧客への売上高	162,068	120,623	28,810	4,342	946	316,791
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	162,068	120,623	28,810	4,342	946	316,791
セグメント利益（△損失）	△33,520	△128,806	△12,382	△12,125	355	△186,479

（注）セグメント利益（△損失）の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

前事業年度よりセグメント情報の区分を見直し、従来の単一セグメントから「機能性素材事業」「機能性製品（通信販売）事業」「機能性製品（ＯＥＭ等）事業」「バイオメディカル事業」「ＬＳＩ事業」の５つをセグメントとした報告に変更しております。

従来は「機能性素材事業」の売上が大部分を占めておりましたが、通信販売事業の拡大による機能性製品部門の売上増加、バイオメディカル部門において創薬事業への展開を進め、収益拡大を見込んでいることにより、報告セグメントを区分したものです。

なお、前第１四半期累計期間のセグメント情報は、当第１四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。